

CONTENTS

- 2 情熱の奥州人
- 4 特集 地産地消エネルギーをつくる
～未来に続くまちづくりのために～
- 12 チャレンジデー 2011
- 13 住宅用太陽光発電システム導入促進費補助金
- 14 新規高卒者支援
離職者生活安定資金
公共下水道事業受益者負担金
- 15 市の出来事から
- 16 まちの話題
- 18 つながれ 広がれ NPOの輪
- 20 子そだて広場
わが家のアイドル
- 21 消費生活相談
市長コラム「おうしゅう羅針盤」
子ども喜ぶ人気メニュー
- 22 キラリ人輝く
夢トーク
- 23 クラブ紹介
ぼんたのつぶやき
- 24 暮らしの情報
- 28 奥州遺産

〈今月の表紙〉



前九年・後三年の合戦を終結させた源頼義・義家父子。この故事にちなみ、子どもたちの健やかな成長を願う「子供騎馬武者行列」が5月3日、水沢区市街地で行われました。ことしは東日本大震災の復興を祈願して開催です。沿岸被災地の児童を含む、子どもたち21人が集結。鎧兜に身を固め、馬にまたがり練り歩きました。りりしくもかわいらしい武者姿に沿道からは、盛んな声援が送られていました。

情熱の奥州人

8

伝統的技法のもとに 新たななる可能性を求めて

佐藤 圭さん（33歳）
水沢区羽田町字小屋敷



鋳物は1200度を超える熱気との闘い、全神経は見えない鋳型の中に注がれる

鋳型の焼けるにおいが立ち込める鋳物のまち羽田町。最年少の鋳物師・圭さんは、昭和53年この地に生まれた。中学はサッカー部、高校では美術部とバンド活動に明け暮れた。一度家業に就いたが、1年も持たずに家を飛び出し、憧れていたバーテンダーとなる。Uターンは平成15年。「自由に暮らし、やりたいことはし尽くした。大好きだった祖父のように伝統的な鋳物を作りたくなった」と動機を語る。若き鋳物師の静かなる目覚めであった。

つながりと可能性を求め、岩谷堂筆管や秀衡塗などの県南の若手職人と共に、工芸集団「mocrap」を設立。県内外で作品展を開き、 pairwise 品など新商品の開発にも取り組んでいる。「祖父は昔ながらの職人。父は新技術に取り組んだ。自分の歩むべき方向は——」と佐秋鋳造所三代目として、次代の道を探る。作品に刻まれるブランド名『ゆるり』には、鉄器が現代生活にゆとりをもたらすようにとの願いが込められる。「ステンレスなど、鉄より日用品に向けた素材はほかにある。デザイン・造形から、若い人に鉄器を手にとってもらい、鉄のある生活を届けた」と、南部鉄器の新たな可能性を創造し続ける。



さとう・けい◎昭和53年水沢区羽田町字小屋敷生まれ。佐秋鋳造所・鋳物師、日本クラフトデザイン協会会員、岩手県南若手工芸集団mocrap会長。家族は妻、2男の4人暮らし。